

## 富士山を世界文化遺産に!



横山大観「群青富士」：静岡県立美術館蔵

### 『富士山の日』を契機に 世界文化遺産登録へ

平成22年2月23日。「富士山の日」の制定を記念して、静岡市のグランシップで「富士山世界文化遺産フォーラム」を開催しました。

今回のテーマは「富士山の文化的価値」。美しい富士山の姿は思い浮かびますが、「富士山の文化」となるとイメージが湧かない方も多いのではないのでしょうか。静岡県では普段から富士山を目にする機会に恵まれています。常に富士山を見ることができるとは、それが、富士山に昔から息づいてきた文化にまで目が向かない理由かもしれません。

世界文化遺産登録は、富士山の環境だけでなく、富士山の文化も守る取組です。「富士山の日」を富士山に思いを寄せ、古から現代に続く富士山の信仰や芸術にも興味を持つきっかけにいただければと思います。

#### News List

- ◎『世界遺産条約と富士山の世界遺産登録』  
(静岡県学術委員会 委員 児矢野 マリ)
- ◎シリーズ「構成資産候補の紹介」『白糸ノ滝』
- ◎富士山世界文化遺産フォーラムより
- ◎世界遺産用語解説『保存管理計画』

# 世界遺産条約と富士山の世界遺産登録

「富士山を世界文化遺産に！」—現在、静岡県と山梨県を中心に、また政府レベルでも、さまざまな活動が進んでいる。富士山はすでに世界遺産の暫定リスト（日本政府作成）に掲載され、国際的な審査に向けたプロセスも始まった。—この動きは、世界遺産条約という国際条約に基づく。

それでは、世界遺産条約とは何か。富士山が世界遺産に登録されるのはどういうことなのか—以下では、このことを簡潔に説明しよう。

世界遺産条約は、顕著な普遍的価値を有する文化遺産および自然遺産の保護をめぐり、1972年に国連教育科学文化機関（ユネスコ）で採択された国際条約である。文化遺産の保護の条約を作っていたユネスコと、自然遺産の保全のための条約を提案していた国際自然保護連合（IUCN）の動きが、国連人間環境会議（1972年）を経て「合体」した。



静岡県学術委員会委員 児矢野 マリ  
(北海道大学大学院教授)

1975年に発効し、2009年4月までに186カ国がこの条約に入り、登録遺産は878件（文化遺産679件、自然遺産174件、複合遺産25件）に及ぶ。日本は92年に加入した。

世界遺産条約では、締約国は、自国領土内にあるすべての文化遺産および自然遺産を保護し、将来の世代に伝える義務を負う。そして、そのためにできる限り、自国領土内にある顕著な普遍的価値をもつ文化遺産および自然遺産を世界遺産リストに掲載するよう、世界遺産委員会に提出する。

文化遺産とは、顕著な普遍的価値を有する記念工物、建造物群、遺跡などであり、また自然遺産とは、特徴のある自然の地域、地質学・地形的形成物および脅威にさらされている動植物の主な生息地、自然の風景地などである。また、文化遺産と自然遺産の両方の価値を兼ね備えた遺産は複合遺産とされる。さらに、文化遺産のうち、人が自然を利用することで行われた景観（自然と人間との共同作品）は「文化的景観」と呼ばれる。「文化的景観」には、(1)人間の意思により設計され、意図的に創り出された景観、(2)伝統的な生活様式と自然との相互作用で生まれ、進化してきた景観、(3)強力な宗教的、芸術的、文化的結びつきが認められる景観という、3つのカテゴリーがある。

この条約に基づき、締約国は世界遺産

について次のことを行う。まず、自国領土内の世界遺産の暫定リストを作成する。

そして、その中から登録候補の遺産を、登録後の保存管理計画もそえて世界遺産委員会に推薦する。すると、文化遺産については国際記念物遺跡会議（ICOMOS）が、また自然遺産についてはIUCNが、専門的見地から現地調査も行い、登録基準（「世界遺産条約履行のための作業指針」に記載）を充たすかどうか審査する。世界遺産委員会は、基本的にICOMOSまたはIUCNの審査報告を尊重し、登録の可否を最終的に決定する。登録されると、締約国は保存管理計画を遂行するとともに、登録時に世界遺産委員会から付された条件を適切に履行し、同委員会に結果を報告する。同委員会は、毎年、その報告およびその他の情報に基づき保護状況の審査を行う。そして、状況により、世界遺産としての価値を欠くおそれがあると判断した場合には、その遺産を「危険にさらされている世界遺産一覧表」（危機遺産リスト）に掲載し、締約国に改善措置をとることを求める。それでも改善されないときには、世界遺産委員会はその遺産の登録を抹消する。

富士山は、今、文化遺産として日本政府が作成した暫定リストに掲載され、日本政府から世界遺産委員会への推薦を得る途上にある。「紀伊山地の霊場と参詣道」と同様に、「文化的景観」として顕著な普遍的価値を有する資産、という位置づけである。

世界遺産条約は、主権国家から成る分

権的かつ多元的な国際社会の法規範であるがゆえに、また、文化と自然を同時に保護対象とするがゆえに、いくつかの難問を抱えている。たとえば、全体として登録遺産にバランスがとれていないこと（欧州に偏るといふ地域的不均衡、文化遺産が圧倒的に多いといふ不均衡など）、登録基準をめぐり、文化遺産を担当するICOMOSと自然遺産を担当するIUCNとの間で円滑な調整が容易でないこと、武力紛争（アフリカ諸国）、経済開発（途上諸国）、都市開発（先進諸国）などを背景に、危機遺産リストの掲載遺産が相当数に上り（現在世界中で約30）、改善措置がなかなか進まないことなどである。

富士山の世界遺産登録も、これらの問題と無縁ではない。自然と人間との共同作品である「文化的景観」として、富士山が期待通りに登録審査をクリアできるか、また、登録後も保存管理計画が実効的に実施され、危機遺産リストに載ることなく、世界遺産として保護され続けるかどうか—富士山の遺産登録の試みと、適切な保存管理に向けての体制づくりは、世界遺産条約の締約国日本による条約義務の履行プロセスとして、国際的にも注目されている。



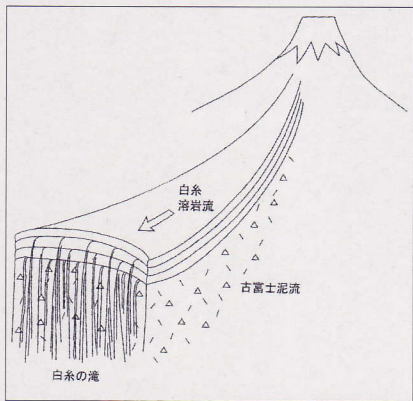
今回は、名勝として有名であるだけでなく、富士講の人々の修行の場であった「白糸ノ滝」(※)を紹介します。

## 湧水を水源とする白糸の滝

白糸の滝は、幅約200mのU字型の岩壁を数百の滝が糸をたらしただように流れ落ちる景勝地です。

その水量は一日約13万トンで、ほとんどは富士山の地下水です。白糸の滝では、古富士泥流の堆積物と、その上に流れ出た約1万年前の白糸溶岩流の各層との隙間から地下水が噴き出ている状況が観察できます。富士山の溶岩は何層にも重なり、各層の間は水が通りやすくなっています。富士山中腹以上へ降った雨や雪解け水はこの間に挟まれ、上からの地下水圧を受けて溶岩の末端部で湧水として噴き出すのです。

なお、江戸時代には、富士五湖が白糸の滝の水源と考えられていました。同じ仕組みを持つ富士山の湧水としては、一日約100万トンの湧水量を誇る柿田川、富士山本宮浅間大社境内



白糸の滝 湧水メカニズム(土隆一氏提供)

の湧玉池、山梨県側の富士五湖や忍野八海などがあります。

## 角行の修行の地

白糸の滝の美しい景観は古くから有名で、建久4(1193)年、富士の巻狩りの際に訪れた源頼朝が和歌を詠んだとの伝承があります。また、織田信長も天正10(1582)年、武田氏を滅ぼしての帰途この近くを通り、その様子を詳しく聞いています。

そのころ人穴で修行していたのが、富士講の開祖とされる長谷川角行です(本誌v017参照)。永禄3(1560)年〜同6(1563)年に人穴で最初の修行を行った角行は、仙元大日神(仙元大菩薩)の使いの言葉に従い、約6km離れた白糸の滝へ出かけて毎日6回の垢離をとったと伝えられています。なお垢離の場は、滝つぼではなく、その上部にある「おびん水」(帯の真奈井)と呼ばれる池だと伝えられています。

## 富士講の人々の巡礼の地

角行が修行の際に垢離をとったことから、白糸の滝は、やがて隆盛する富士講を中心とした人々の巡礼の場となりました。富士講の人々は、富士登拝のほかには御中道めぐり(本誌v014参照)、八海めぐり(富士五湖など山

梨県側の湖や池を巡る)など開祖角行に関わる地の巡礼を盛んに行いました。白糸の滝や人穴もその一つだったのです。

その様子を千葉県の富士講先達であった栄行真山が自伝に記しています。真山は弘化2(1845)年と嘉永7(1854)年に白糸を訪れています。特に弘化2年は角行の二百回忌にあたり、多くの信者が滝つぼで垢離をとり、信者の周囲に虹が出来る現象を「御来光」としてありがたがったとしています。また、嘉永7年の自伝の挿図には、天保期(1830〜1844)に建立された食行身縁(本誌v017参照)の供養碑が描かれています。この碑は、現在も滝つぼに向かって左側の場所にあります。また、滝へ向かう道路の右手には大正時代の富士講の大きな石碑が建てられています。



富士講の石碑



食行身縁の石碑

## 姿を変えていく白糸の滝

滝は、その宿命として崖を侵食し、次第に上流側に後退していきます。白糸の滝も、一年に2cmの割合で後退しています。加えて昭和49(1974)年の七夕豪雨の際には、増水により主滝が長さ10m、幅5mにわたって崩壊したため、主滝付近の様子は大きく変わりました。また、昨年も主滝で自然崩落があり、白糸の滝の姿は100年、200年先には大きく変わる可能性が指摘されています。

未来の人が眼にするのは今の姿ではないかもしれませんが、現在のすばらしい景観を大切に、多くの方々に白糸の滝の美しさとそれにまつわる信仰・芸術の歴史に触れていただきたいと思っています。



紅葉の「白糸ノ滝」

(※)国の名勝及び天然記念物に指定されている「白糸ノ滝」は、曾我兄弟のあだ討ちの話で有名な「音止めの滝」と「白糸の滝」、及びその周辺地で構成されています。

# 富士山世界文化遺産 フォーラムより

平成22年2月23日(火)、「富士山世界文化遺産フォーラム」を開催しました。当日は約500名の方々に御参加いただき、基調講演やパネルディスカッションを通じて富士山への思いを深めました。ここでは、その一部を紹介します。

## 1 基調講演

### 『富士 芸術と文化の山』

高階秀爾 氏 (大原美術館館長)

富士山は最古の歌集である万葉集で詠まれ、また、最古の物語とされる竹取物語にも出てくる。富士山のイメージはるか昔から伝わってきたもので、富士山に関する文学や絵画、芸術は日本人の心の歴史と共にずっと続いている。

このように富士山は昔から日本人の宝であり、ぜひ、世界の宝として世界文化遺産に登録したい。



## 2 合唱

### 静岡混声合唱団 TERRA

『ふじの山』

『しずおか賛歌 富士よ夢よ友よ』

『大地讃頌』

※当日は「しずおか賛歌」の作詞者である白鳥時次さんに御出席いただき、作曲者でTERRAの代表者である南荘宏さんに指揮をしていただきました。



## 3 パネルディスカッション

### 『富士山の文化的価値』

【パネリスト】

村松友視 氏 (作家)

静岡県民は気候が温暖で、食べ物もおいしいという恵まれた環境で暮らしており、ハングリー精神がない。富士山はそのような県民のエネルギーを導き出す象徴になるのではないかと。

岸本加世子 氏 (女優)

子供の頃は富士山があることが当たり前であったが、母が亡くなってから富士山への思いが込み上げてきた。富士山は日本人の故郷であり、一日も早く世界文化遺産に登録されることを期待する。

稲葉信子 氏 (筑波大学大学院教授)

富士山を世界文化遺産にするためには世界の人々に価値を理解していただく必要がある。現在その準備を進めているところで、議論も大分煮詰まってきた。

【コーディネーター】

秋岡榮子 氏 (経済エッセイスト)



### ケルン大聖堂

1248年に着工され、16世紀半ばから一時中断されましたが、600年を超える歳月を経て1880年に漸く完成したゴシック様式の建築物の傑作です。ライン河畔に堂々とそびえ建つ、高さ157mの巨大な二基の尖塔が象徴的な宗教建築物で、古都ケルンのシンボルになっています。

1996年に文化遺産登録されましたが、周辺で進む高層ビル開発が大聖堂の景観を阻害することを理由に、2004年に危機遺産リストに掲載されました。その後、ケルン市が建設計画の縮小、周辺の管理計画を改善したことにより、2006年に危機遺産リストから除外されました。

## ◎世界遺産用語解説

### 『保存管理計画』

世界遺産登録のルールが記載されている、「世界遺産条約履行のための作業指針」は登録の条件として、資産の価値を保全するために適切な管理計画を策定することを求めています。登録資産の文化財としての価値及び構成要素を守り、将来にわたって確実に継承していくため、適切な保存管理の方法と整備活用の方策を定めたものが『保存管理計画』です。

富士山では、構成資産である個別の文化財の計画、静岡・山梨それぞれの県を包括する計画、富士山全体を包括する計画という3段階に分けた保存管理計画を策定する予定です。